

## 令和6年度 高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 令和7年3月19日（水）午後3時00分～3時55分

II 場所 高岡市役所3階 庁議室

III 出席者 高岡市長 角田 悠紀

高岡市教育委員会

　　教育長 近藤 智久

　　教育委員 長尾 順子

　　教育委員 藤重 歩

　　教育委員 永岩 聰

事務局関係

総務部

　　総務課長 新田 裕子

　　総務課副課長 塩谷 慎久

教育委員会事務局

　　教育次長 村上 彰

　　教育次長・学校教育課長 津田 久

　　教育総務課長 津幡 佳成

　　生涯学習・スポーツ課長 澤田 剛章

　　教育総務課副課長 高山 篤志

　　学校教育課副課長 小山 美千代

　　生涯学習・スポーツ課係長 石井 圭

IV 傍聴者 1名

### V 協議の概要

#### 1 開会

・市長あいさつ

#### 2 項目

（1）高岡市教育大綱の期間延長について

（2）ものづくり・デザイン科（令和7年度試行）全体構想について

（3）高岡市スポーツ施設活用・配置計画の策定について

## ○発言要旨

### (1) 高岡市教育大綱の期間延長について

#### 【永岩委員】

教育大綱の期間延長に異論はない。意見としては、教育大綱という教育の基本的な方針について、5年という設定期間が適切かどうかを検討する必要があるのではないか。民間企業等においては、目まぐるしく変化していく社会への対応として、基本方針などは3年より短いものが一般的である。

#### 【市長】

今回の期間延長は、教育大綱の期間と総合計画の期間を揃えていきたいという考えである。次期の大綱の内容については今後検討していくこととなるが、計画期間の5年間、内容をそのままにするということではなく、その時々の課題に応じて修正していく部分もあるものと考えている。例えば、実行計画に相当する重点施策において目標が達成したものについては、さらに高い目標を設定していくなど、必要に応じて教育大綱についてもブラッシュアップしていきたい。

#### 【教育長】

計画期間において変わらず続けていかなくてはならない部分と、見直しを図っていく部分があると考えている。教育委員会重点施策などは1年ごとに見直しを図っており、セットで考えていきたい。

#### 【長尾委員】

喫緊の課題は、様々な子どもたちへの支援である。現場には今以上のきめ細かい支援を行う余裕がないという状況において、計画されている教育総合支援センター(仮称)には、大きな期待が寄せられている。こうした状況の中で、施設としてのハード面も重要だが、配置する人材がより重要であると考える。子ども達一人ひとりを誰も取り残さない、子どもを産み育てやすい、高岡市で良かったと思ってもらえるようなまちにしていってもらいたい。

#### 【市長】

本市には、全国的にみても数少ない、障がいを持った子どもたちのための施設である「きずな子ども発達支援センター」がある。また、新たに設置予定の教育総合支援センター(仮称)は、様々な悩みを抱える子どもたちの心の支えとなるような機能を有する県内唯一の施設にしていきたいと考えている。子どもたちの未来のために、たとえ躊躇しても何度でも挑戦できる環境を整備していきたい。

#### 【藤重委員】

教育総合支援センター(仮称)が、支援が必要な子どもたちにとって、親しみやすく通

いやすい場所となるよう、施設の愛称を小中学生などから募集してはどうか。

今後は、家から出られない子どもたちへの対応も重要だと考えている。他県では、気軽に話し相手になってくれるバーチャルキャラクターのアプリを製作している事例もあるとのこと。子どもたちが気軽に相談でき、家から出られない子どもたちにも関わりを持てるようにしてもらいたい。

また、教育大綱については、内容を分かりやすく視覚的に伝えていくことが重要であると思う。併せて、高岡市の教育で重点的に取り組んでいる施策について、PTA活動や親子活動などの機会を捉えて、広く説明していく取組みも必要ではないか。

#### 【市長】

私が市長に就任して以降、事業を進める際には、ソフトを先行して検討している。教育総合支援センター（仮称）についても、不登校児童・生徒の増加、外国人児童・生徒の増加への対応という課題に対応するため、まずは支援の形や内容について検討を進め、そのソフトを実施するために必要な整備を進めるという考え方で取り組んできた。TASUなどでも同じ考え方で進めてきている。

教育総合支援センター（仮称）が、子どもたちにとって「行くことができる」施設となることが重要である。子どもたちから愛称を募集するというご提案は、教育委員会では是非検討していただきたい。

教育大綱は高岡市の教育の精神的な柱になる部分であるが、教育大綱が策定されること自体知らない市民の方が多いのではないかと考えている。高岡市の教育の方向性を一枚の絵（キービジュアル）で分かるようにできないか、また、その絵を子どもたちの手で作成する取組みができないか考えていきたい。

### （2）ものづくり・デザイン科（令和7年度試行）全体構想について

#### 【永岩委員】

高岡の歴史と伝統を未来に繋げていくものづくり・デザイン科の授業は、大変素晴らしいものであり、今後も継続していただきたい。ものづくりに携わる企業以外にも、高岡の伝統を守りたいという企業は多いと思われる。現在協力をしている企業・団体以外にも協力を得られる企業は多いのではないか。

#### 【市長】

これまででも、ものづくり・デザイン科に関わる方々からの意見をお聴きしてきたが、第三者からの意見を聞く機会が不足していたと考えている。子どもたちがこのような体験を基に、シビックプライドを持って社会に出ていくためには、ものづくり以外の分野も含め、様々な企業を巻き込んだ取り組みとしていくことが重要である。

#### 【長尾委員】

デザインを中心とした学習の厚みを増していくことになる。デザイン力が身に付くと、コンピュータや論理コミュニケーションで表現する力も向上するものと考えている。さ

らには、そこから学んだものを、地域をはじめ多くの方々に発信していくきっかけとなるような内容になるものと考えている。

**【市長】**

デザイン力とは、子どもたちが発想を形にできる能力につながり、これは、ものづくり以外にも、社会に出る上で必要となる能力であると考えている。

地域に内容を発信する機会として、ものづくり・デザイン科の授業を受けた子どもたちが、高岡こどもまんなか新聞「みんなのかお」の記事を作成することなどを検討していきたい。

**【藤重委員】**

小学校5年生から中学校1年生にかけての「ものづくり・デザイン科」と、中学校2年生での「論理コミュニケーション」とを連動させていくというのは、小中一貫教育の面でも大変よい取組みである。その中でも、中学1年生が学ぶデザイン発展学習を、ビジネス界や高校などとの連携した取組みとして進めることで、論理コミュニケーションも含めた一連の取組みが、さらにより良いものになると考えられる。

**【市長】**

論理コミュニケーションを学ぶことは、子どもたちが自分の考えを言語化できることにつながる。子どもたちの将来を考えたとき、これは大変重要なことである。市内の特色ある高校との中高連携の推進については、機会を捉えて県にも伝えていきたい。

**【教育長】**

当初、試行錯誤で進めていたものづくり・デザイン科が、他の授業との連携などが行えるようになり、成熟してきたと実感している。今回の見直しを検討する中で、各学校と地元のものづくりの企業との間で、新たな取組みのアイデアも出てきているところである。また、市内の高校との連携についても働きかけを進めていきたい。

**(3) 高岡市スポーツ施設活用・配置計画の策定について**

**【永岩委員】**

施設は期間が経てば老朽化するものである。この計画では、廃止を含めた各スポーツ施設の方向性が定められており、この計画に従い取り組みを進めていただきたい。

**【長尾委員】**

スポーツ施設においても、その軸は持続可能であることである。このような計画があることにより、今後の見通しと内容が分かりやすく発信出来るようになると思う。

**【市長】**

新総合体育館については、多くの様々なご意見をいただいていることは承知している。全く体育館を使用されない市民の方々もいる中で、一部の意見を聞くのではなく、市民の皆さんにスポーツ施設の今後のあり方を示すことが重要である。老朽化していく施設を延命していくだけでは、人口減少社会の中では施設総量は変わっていかない。施設数は減少するかもしれないが、その分、個々の施設の機能を向上させていきたいという思いが計画に反映されている。

#### 【藤重委員】

新総合体育館の建設までの段階的な対応が記載されていることは、竹平体育館のサブアリーナがなぜ必要なのかということも含めて、市民の皆さんにとっても分かりやすいものとなっている。これを広く知らせていくことが重要である。

高岡スポーツコア全体のポテンシャル向上に繋がる活用に関しては、公共交通によるアクセスの向上が課題と考えている。城端線があいの風とやま鉄道に移管された後の新駅設置などによる公共交通の利便性向上と一体的に考えていくのが良いのではないか。

#### 【市長】

能登半島地震の際には、東洋通信スポーツセンターが使用不能となり、利用者へは、他市スポーツ施設の紹介などの対応を取った。しかし、需要の全てに応じることが困難であったこと、また、東洋通信スポーツセンターが築64年を経過しているという点を踏まえて、市民の皆さんのスポーツ機会の提供に応えるため、竹平体育館へのサブアリーナ建設を決めたものである。

高岡スポーツコアについては、これまで建設当初の機能を維持していくことに重きを置いてきた。今後は、高岡スポーツコアの魅力を更に上げることで、利用者数の増加に繋げていきたい。多くの方々に利用していただくことが、公共交通機関を含めたアクセス性の向上にも繋がっていくものと考えている。

#### 【教育長】

高岡市スポーツ施設活用・配置計画を着実に進めていくことが重要である。「子どもを真ん中に」の考えのもと、子どもたちの目が輝くような、期待を持ってもらえるスポーツ環境の整備に取り組んでいきたい。